

2019年度 古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第1回 報告書

開催日 第4土曜日 2019年5月25日(土) 読書会 9時半～11時半

開催場所 中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室(四ツ谷)

参加者 6名(会員5名、他1名)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)本日の朗読の進め方(リーダー)

今回は三度目になりますが、「第四集 受け日(うけひ)」を味わいます。なかなか難しい内容ですし、新しいメンバーも加わりますので、一節ごとに区切って感想を述べあいたいと思います。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第四集 受け日」を車座になり全員で順番に輪読。

(4)読後感

○「受け日はこれで3回目だと思いますが、毎回新たな発見があります。

今回は、任命するものとそれを受けるものの覚悟の厳しさをあらためて感じました。

また、天照大御神の身体を張った怒りが須佐之男命やこの世界のことを真剣に想ってのことであり、深い愛情からの行いであることを感じました。

私のこれまでの人生において、行動に対する覚悟であるとか、自分以外の人のことを心底愛情をもって考える、ということはなかったように思います。

今後どれだけのことがあるのかわかりませんが、一つ一つのことを大切にしたいと思いました。

本当に毎回、いろいろなことに気づかせてもらっています。

○<ひ>に向かって進んでいくことが「まいのぼり」であります。

<ひ>とは人間の本質で、そこに向かって進んでいくということは、人間の根本の問題に真剣にぶつかることと捉えられます。

<ひ>は光でもあり、輝いていることでもあります。

また、<ひ>を知ることを<ひじり>といいます。

<ひ>に向かい輝き、清らかに生きている人は、ひじりであり、そのように生きる努力をなさいと、教えていただきました。

○国造りの仕事をすぐに嫌になって「なきいさち」を続ける須佐之男命の情けない姿が、古事記の大事なエピソードとして取り上げられていることを深く味わわなければいけないと思いました。簡単には成し遂げられない困難なことに取り組む過程では、「なきいさち」による荒廃は何度も繰り返えされる当たり前のことであるという先人の教えなのではないかと感じます。うっかりすると「なきいさち」に陥りがちな自分を叱咤激励し、「ひかり」に照らして嘘偽りのない真心の行動であることを確かめながら人生を切り開いて行くようにと言うお聴しであると受け取りました。

<2019年度の予定>

4月はお休み

5/25 終了

6/22 ←今回

7/27

8/24

9月はお休み

10/26 ←キャリアセミナー@東京ウィメンズプラザの日程の関係で第3週 10/19になる可能性あり

11/23

12月はお休み

1/25

2/22

3/28

次回予定

2019年6月22日(土)9時半～12時@中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室

今回は、「**第四集 受け日(うけひ)**」の後半をじっくり味わいたいと思います。

連絡先：参加申込方法：開催日の1週間前までに、下記の必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】所属支部、氏名、同伴者の有無(ご関係)、緊急連絡先(携帯)

申込先：reading-circle@womencivilengineers.com (担当：須田)

以上